

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカ (認知症)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- 目的 認知症への理解を深め、対象者へ評価・介入が出来る
- 目標
- 1) 認知症短期集中リハビリ加算への取り組みの充実化
 - 2) 認知症状の変化をとらえ、適切な評価・介入が出来る
 - 3) 途中より、リハ合宿の認知症リハの充実化も追加

●構造 structure

【人数、配置】

・認知症コアグループ: OT2名, ST1名

- ①OT: 通所リハ・デイサービス ②ST: 入所・訪問 ③OT: 入所

【物品】

- ①文献: Jstageなどのネット上での検索より収集 ②ひもときシート
③興味関心チェックシートのリハ合宿改訂版 ③書籍

【量】

- ①コアカリキュラム勉強会1回開催 ・ ②グループでの集まり計8回

【活用した既存の環境】

- ①リハ合宿 ②通所リハ内での作業活動 ③3F体操

●過程 process

- 1) 認知症短期集中リハビリ加算への取り組みの充実化

→通所リハ内の役割、コミュニケーション機会、遂行機能維持への枠組みの活動としての作業活動実施
(習字、壁飾り、季節の物品作製)

→MMSEの追跡調査。今年度分は収集中。

- 2) 認知症状の変化をとらえ、適切な評価・介入が出来る

→コア活動、勉強会内でのケーススタディ実施。

入所で周辺症状が顕著な利用者様を通して、原因分析、環境調整・対応方法を検討。

- 3) リハ合宿の認知症リハの充実化

→利用者様の興味のある活動、習慣化されていた活動の実施・継続できるよう環境調整を行う。

リハ合宿改訂版興味関心チェックシートを作成、4F介護スタッフと連携し実際行えそうな活動を考えた

●結果 outcome

- 1) | ①通所内で主体的に行動する人が増えた
②認知の目的である「生活機能」へのアプローチ方法へのアプローチ方法充実には至っていない。
③MMSEの追跡調査はデータ収集途中のため持ち越し課題。

- 2) ①前年度課題であがった、周辺症状が顕著な方への介入はケーススタディを通して行うことができた
ケーススタディを通して、集団体操を通じたアプローチ方法を行うことができた(司会の一部依頼)

- 3) ①フロアと連携した活動を行うことができています。
②作業活動の実施には至っていないため持ち越し課題。

《次年度持ち越し課題》

MMSEの追跡調査

リハ合宿の認知症リハの取り組み